

ものれーる



武蔵村山市 都市整備部
都市計画課
042-565-1111(代表)

モノレール延伸を実現

させるための方策調査まとまる



調査の目的

武蔵村山市では、市民の悲願である多摩都市モノレールの延伸に向けた市民意識調査や環境軸における位置付け等に関する調査を続けてきましたが、既存路線の経営状況等から具体的な延伸計画が決定に至っていない現状です。

延伸を実現させるためには、現在の市における多摩都市モノレールの位置付けを明確にする必要があることから、本年度調査では、**交通弱者***の日常的な交通行動を把握し、現在の武蔵村山市における公共交通の課題点等を整理した上で多摩都市モノレールの担う位置付けを整理し、多摩都市モノレールの需要予測や整備による定量的・定性的な効果等、市内延伸のための基礎的な情報の収集を重点的に行い、報告書をまとめました。

***交通弱者**とは、高齢者や若年齢層等の公共交通以外の移動手段を持たない人のことです。

調査の概要

交通弱者の日常的な交通行動を把握し、現在の武蔵村山市における公共交通の課題点等を抽出した上で多摩都市モノレールの担う位置付けを整理

想定される路線計画の需要予測や整備費用の検討

モノレールの市内延伸による効果の検討

多摩都市モノレール延伸の必要性の整理

公共交通ネットワークの現状と課題

市内主要施設への交通手段は、約 55%以上の市民が自動車を利用しており、バスや福祉会館送迎バス等の公共交通手段は 10%未満と極めて低い利用率でした。

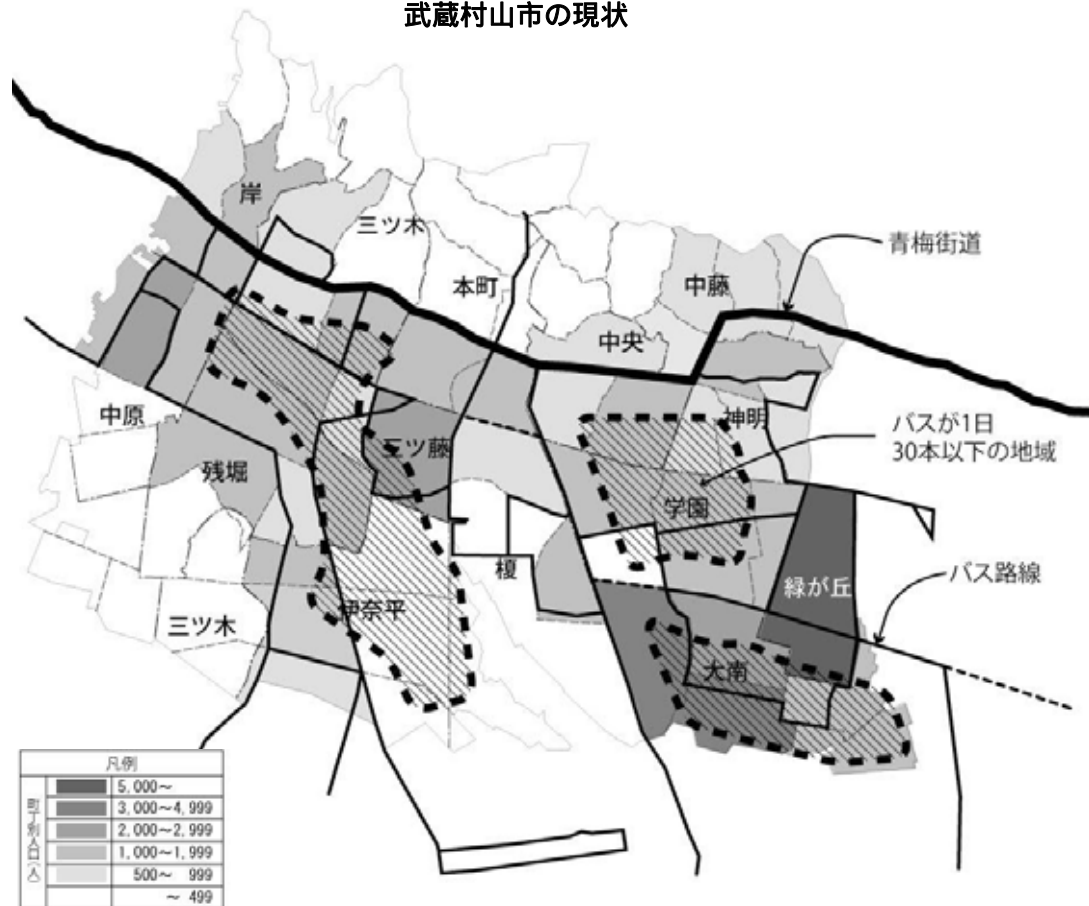
60 代以上の高齢者においては、約 45%が自動車を利用している一方で公共交通機関の利用率は約 15%と比較的高いものでした。

現在の公共交通機関に対する満足度は、全体では 46%が利用しにくいと回答しており、目的地への移動距離が長いほど満足度が低くなる傾向にありました。現在の市内の人口と産業は、どちらも武蔵村山市南部に集積していますが、既存バス路線は青梅街道が中心軸となっており、それらとの連携が図られていません。

複数の交通手段を乗り継いで移動している市民は、市内施設の移動では約 1%、市外の駅へは約 3%と極めて低い数値であり、武蔵村山市の公共交通がネットワークとして機能していないと考えることができます。

人口・産業集積地等との連携を考慮すると、多摩都市モノレールだけでなく、バスや自転車等の他の交通手段を活用した面的な交通ネットワークを構築することでより大きな効果を生み出すこととなります。

武蔵村山市の現状



市民の声

平成18年度に行われた調査や、今回行った市民へのアンケート調査からは、モノレールの延伸や公共交通の充実を望む声が非常に多く、市民側からの意向としてもモノレール延伸を早期に実現するものであるといえます。

アンケート自由回答抜粋（公共交通に関するコメント）

- ・時間短縮と夜間早期の足の確保のため、ぜひモノレールを延伸してほしい。今の状態では車の運転できない人、車のない人は移動が大変です。安全面からも心配。（40代・女性）
- ・バスよりモノレールが早く通ってほしい。バスは一日数本。（40代・男性）
- ・歳を取って車を運転しなくなるとバスやモノレールがないと通勤にも不便。（50代・女性）
- ・モノレールの武蔵村山延伸は村山人の願いです！！ぜひ実現してほしいです。住み良い町になるといいですね。特に病院や大きな商業施設、中心部（市役所）などのアクセスがよくなれば、よりよい場所になると思います。（20代・女性）

目指すべき将来像

モノレールを中心軸として公共交通ネットワークの構築により交通弱者の足を担い、市民が快適で安心して生活できる基盤を整備します。

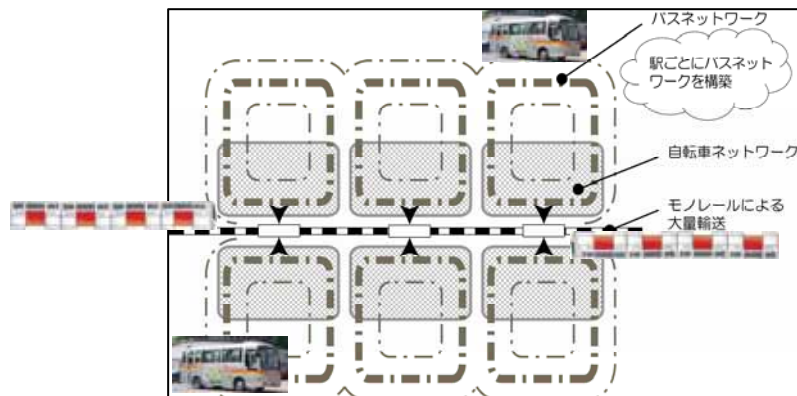
公共交通ネットワークとは

単一の経路ではなく、バスや鉄道、モノレール等の公共交通機関が交通網・路線網を形成しています。

公共交通機関やその路線がそれぞれ連結しており、目的地に向かうルートが複数あり、選択ができるようになります。

ネットワークが形成されることにより、公共交通の乗り換えにより目的地に行くことが可能となり、市民の移動が便利になります。

公共交通ネットワークイメージ



今後の方針

今回の調査では、武蔵村山市内の公共交通ネットワークにおける多摩都市モノレールの位置付けを整理するため、現在の市内における公共交通の現状及び市民の日常的な交通行動等を把握し、課題点の抽出を行った上で今後の公共交通ネットワークの在り方や延伸した場合の効果等を示しました。

市民参加型社会となった現在、モノレール延伸を実現していくためには、行政だけでなく、市民と一体となった活動が不可欠であります。

そこで今後は、市民への啓発・PR 活動を通じて周知を図り、モノレール延伸に対する関心を高めるとともに、市民の総意を集約しながら、延伸を実現するための多様な活動の展開につなげていくことが必要であると考えます。

活動予定カレンダー

平成 20 年度はモノレール延伸に向けて様々な活動が予定されています。活動は大きく 絵画コンクールの実施、パンフレットの作成、シンポジウムの開催の3つあります。みなさん、どんどん参加してください。

活動予定時期					
7月	8月	9月	10月	11月	12月
絵画コンクールの実施		入選作品の掲示			
パンフレットの準備		パンフレットの配布			
			アンケートの実施		
				シンポジウムの準備	

調査報告書をご覧になりたい方は

多摩都市モノレール関連都市計画変更調査 「多摩都市モノレールの市内延伸を実現するための方策調査委託」は都市整備部都市計画課窓口で閲覧できます。

また、「概要版」は、下記のページに掲載してありますのでご覧ください。

「ものれーる」に対するご意見・ご感想を是非お寄せください。

Eメールでの投稿 m-murayama@city.musashimurayama.tokyo.jp